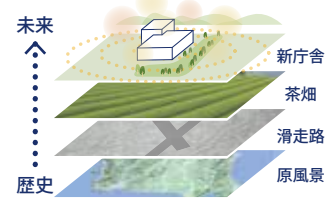


基本的な考え方

南九州市の原風景とともにひと・まち・未来が重なる新庁舎

美しい原風景が広がる南九州市に暮らす人々の想いを大切に、まちの歴史や文化に敬意を払い、「時間軸を重ね、未来へとつなぐ市民が誇れる新庁舎」をみなさまと共に創り上げます。
地域の未来を考え、将来の超高齢化や人口減少時代を迎えることを踏まえ、日本古来の考え方であるひとつの場所を多目的に使用する「重ね使い」を大切に、みんなに永く親しまれるコンパクトな新庁舎を提案します。



市民に寄り添う「広場」の重ね使い

- ・ 四周に面して様々な使われ方が可能
- ・ 災害モードへの迅速なシフトチェンジ

コンパクトにまとめる「庁舎」の重ね使い

- ・ 市民が利用しやすい2階建て・分棟庁舎
- ・ 市民の多目的な待ち空間「まちの縁側」

次世代につなぐ「未来」の重ね使い

- ・ 多目的に活用される「未来の広場」
- ・ 人口減少と行政システムの変化に対応

設計チームの特徴・業務に対する取組体制

庁舎経験豊富な専門チーム+地元事務所+全社技術サポートによる連携体制

- ・ 庁舎建築の設計監理実績を有する弊社の専門チームと、南九州市に理解の深い地元事務所メンバーにより「南九州市新庁舎設計チーム」を構成し、密な連携体制のもと、きめ細やかな設計対応と積極的なプロジェクトマネジメントを行います。
- ・ 急な打合せにもすぐに駆けつける万全の体制とし、要望や質問等に対してワンデイレスポンスを徹底します。
- ・ 全社技術サポートチームによる技術支援のもと、社内 TV会議や設計レビューを通して、全国の庁舎設計経験者の知恵と最新情報を集結し、確実にニーズに応える提案を行います。
- ・ 住民説明会や検討委員会、議会に向けたわかりやすいプレゼン資料の準備等、バックアップを確実にを行います。

対話を重視：「いち早く・丁寧に・適切に・わかりやすく」

- ・ みなさまとの「対話」を重視し、ワークショップやヒアリングなど丁寧な聞き取りを重ねながら信頼関係を築き、同じ目標に向かって想いを形にします。
- ・ 打合せは複数案を作成し、比較検討型の提案を行うことにより円滑な意思決定を図ります。
- ・ 3次元モデル (BIM)や動画を活用したプレゼンテーション等、視覚的にわかりやすい資料により相互理解を深めます。

特に重視する設計上の配慮事項

みんなでまちづくりを考える参加型ワークショップ

- ・ 知覧・川辺・瀬戸の3つのまちを支える新庁舎づくりとして、共に南九州市の歴史を学び、未来を考える参加型ワークショップを提案します。

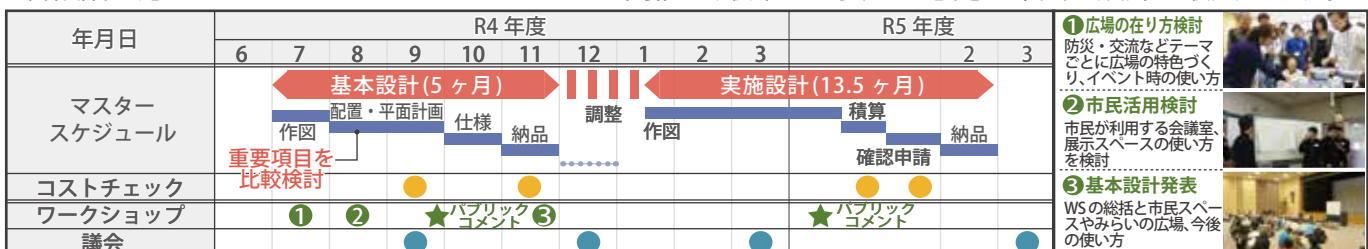


参加型ワークショップ

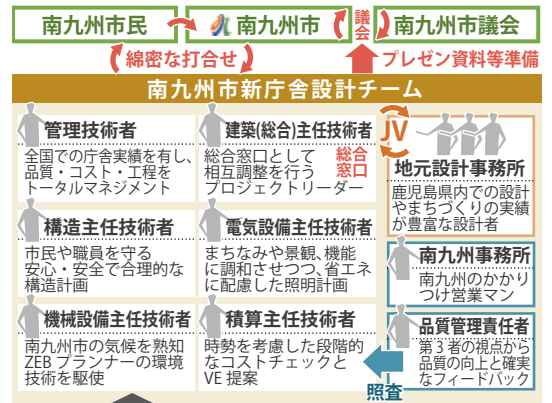
設計工程を含む事業全体のロードマップ

確実に「想いをかたちに」する設計のプロセス

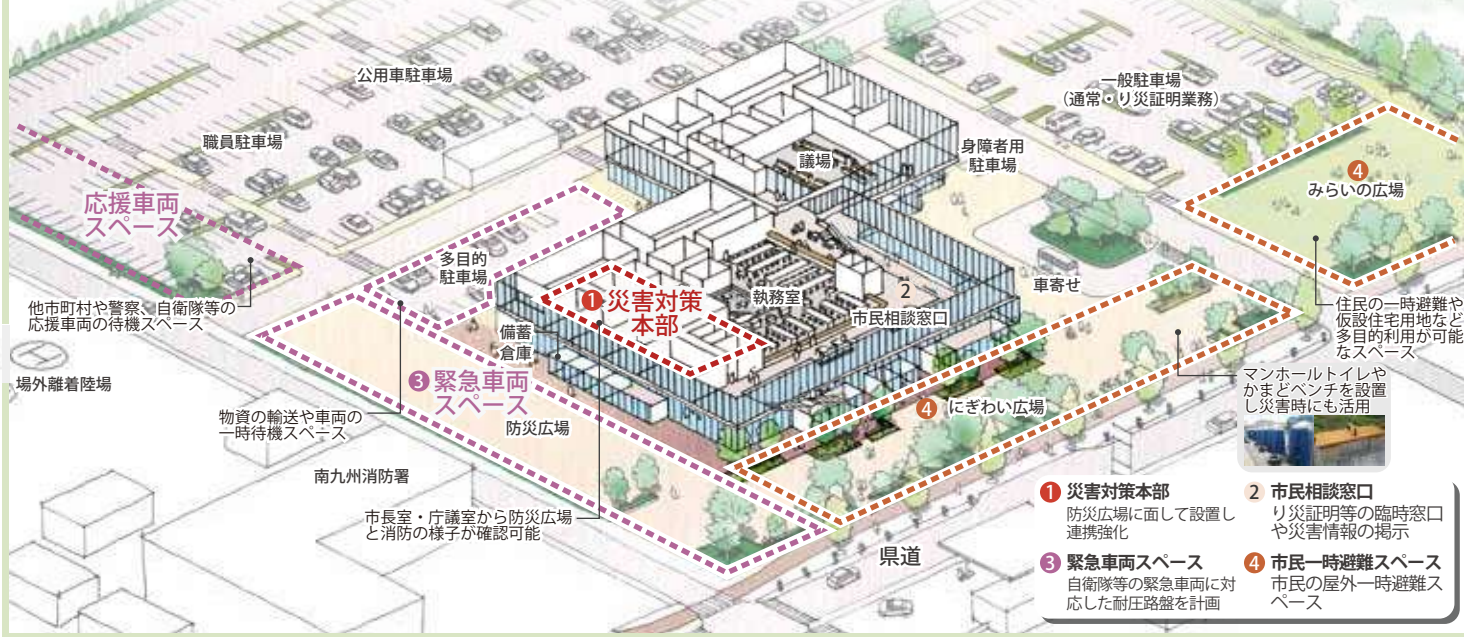
- ・ 各段階に応じてヒアリングやワークショップを開催し、収集した要望や意見を確実に設計に取り入れます。



南九州市のみんなの「想い」を実現するロードマップ



「いつも」のにぎわいから「もしも」のときに市民を守るフェーズフリー庁舎
日常と災害時の垣根をなくす防災手法「フェーズフリー」を取り入れた庁舎づくりを行います。「いつも」市民に開かれ、すべてのひとが使いやすい庁舎や広場を計画し、『重ね使い』の考えにより、「もしも」のときに地域の安心・安全を支える防災拠点として頼りになる新庁舎を提案します。

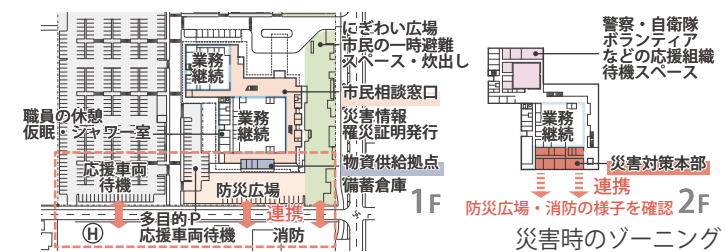


02 地域の安心・安全を支える防災拠点となる庁舎 いかなる時も庁舎機能を止めない市民を守る万全の災害対策

基本方針1

1 消防と庁舎機能の連携強化により防災拠点を形成

- 迅速な機能転換や支援活動が可能な計画とします。
- 「防災広場」を緊急車両スペース、物資供給拠点とし、「にぎわい広場」は一次避難スペースとして活用します。
- 2階庁議室と市長室を隣接させ、災害担当部門を集約配置することで、災害対策本部の機能を充実させます。
- 1階ホールを災害情報の発信拠点、2階議会フロアの会議室を職員や応援部隊の待機スペースとして活用します。



2 庁舎機能を止めない BCP 庁舎

- 災害の長期化に備え、電力、水、通信等のライフラインのバックアップ体制を整え、食料、飲料水、燃料の備蓄により最大7日分の庁舎機能維持が可能な計画とします。
- 受電及び通信の2回線引込みが可能な計画とします。
- 安定した降水量である地域性を活かし、雨水貯留槽にてトイレの洗浄等の中水利用が可能な計画とします。
- 備蓄倉庫は搬出入を考慮し防災広場に面して配置します。

	通常	災害発生 公共インフラ停止 (1～7日)	7日以降
電気	発電機 (燃料備蓄3日分) + 補給 + 電源車 + 太陽光発電		
上水	受水槽3日分 + 飲料水 + 井水 (浄化処理)		
中水	雨水貯留槽より供給 (7日分)		
下水	汚水貯留槽 (7日分) + マンホールトイレ		
炊出し	LPガス		
通信	2回線引込み		

災害時バックアップシステム

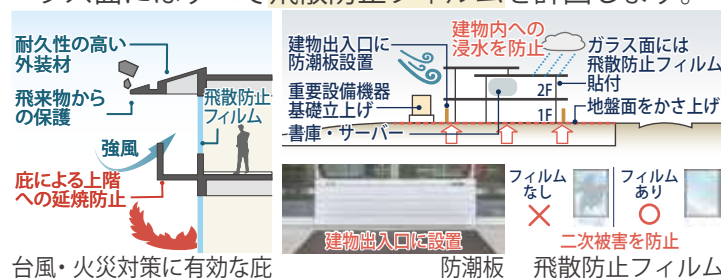
3 地震に強い構造体 | 類の2階建て耐震構造の庁舎

- 建物は揺れの少ない RC造 + 一部 PC造の2階建てとすることで、免震構造を採用せず耐震構造で十分な構造安全性を確保する計画とします。また、バランスの良い柱配置とし、地震力の偏りのない計画とします。
- 鹿児島県特有のシラス台地に対し、摩擦力により建物を支持する摩擦杭を採用します。
- 電算室等の重要機器には免震床構造を採用します。

種類	耐震構造	制震構造	免震構造
地震後の損傷	○	○	◎
全体工期	◎	○	△
コスト	◎	○	△

4 台風や暴風、豪雨、火災に強い庁舎

- 建物には全周バルコニーを計画することで、台風や暴風時には飛来物から建物を守り、火災時には上階への炎の回り込みを防ぎます。
- 万が一の浸水対策として、重要書庫やサーバー等は2階に計画し、受変電設備や非常用発電機、受水槽の重要設備機器は、基礎を1.0m以上立上げます。
- 出入口には脱着式の防潮板を設置し、外部に面するガラス面にはすべて飛散防止フィルムを計画します。



01 地域の安心・安全を支える防災拠点となる庁舎 / すべての人にやさしい庁舎 3つのまちをつなぐ庁舎とにぎわいを育む広場づくり

基本方針1
基本方針2

1 四方に開き広場がつなぐ庁舎づくり

- 知覧・川辺・頴娃の3つのまち (古くは勝目も含めた4つの村)の中央に位置する南九州市新庁舎として、四方に開いた庁舎づくりを提案します。
- まちの風景と庁舎をつなぐ広場を敷地の南と東に計画します。日常時は緊急輸送道路となる県道沿いの「にぎわい広場」を中心ににぎわいと交流を育み、災害時には南九州消防署に隣接した「防災広場」を中心に防災拠点として機能転換する広場計画とします。

2 四方からわかりやすいアプローチと駐車場計画

- 県道よりメインアプローチを計画し、建物を道路からセットバックさせ広場を設けることで四方からわかりやすい計画とします。
- 県道からのメインアプローチは、既存の切り下げ箇所を活用することで、灯篭や街路樹を移設することなく未来へとつなぐ計画とします。
- メインアプローチに沿って、新庁舎の北側に一般駐車場を設け、新庁舎西側に職員・公用車駐車場を計画します。南側市道にも車両出入口を設けることで、利便性の高い計画とします。

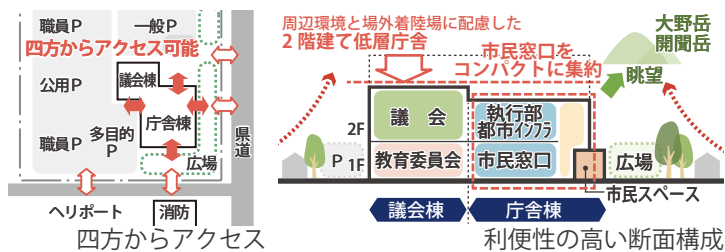


03 すべての人にやさしい庁舎 すべての人にわかりやすい・使いやすい・安心できる庁舎づくり

基本方針2

1 四方からアクセスし、利便性の高いフロア構成

- 庁舎は四方に開き、各駐車場から玄関への距離を短縮し、来庁者・職員のどちらも利用しやすい動線とします。庁舎南西の多目的駐車場は職員動線の短縮と時間外利用の利便性向上を図ります。
- 庁舎棟1階は市民窓口、2階に都市インフラ・執行部を配置し、議会棟の1階に教育委員会、2階を議場とすることで利便性の高いフロア構成とします。



2 歩車分離の徹底と雨に濡れない動線計画

- 歩車分離を徹底した安全なアプローチ計画とします。
- 車寄せはコミュニティバスが寄り付き可能な広さを確保し、雨に濡れない動線を確保します。
- 身障者駐車場から、雨に濡れずに玄関へアクセス可能な庇と動線計画とします。
- 駐輪場は東側道路から認識しやすい位置とし、レンタサイクル「茶巡 (チャーリー)」ポートを計画します。



3 市民目線の利用しやすいワンストップ窓口

- 市民の利便性が高いワンストップ窓口を実現するために、市民・福祉・税部門を1階に集約配置します。
- 行き先が一目でわかる空間構成及び案内表示とし、待合には情報発信、展示コーナーを設けます。
- ロビー・個別相談等の多様化する相談業務への音漏れを防ぐサウンドマスキングを用いた無料法律相談など、プライバシーに応じた様々な相談スペースを設けます。



4 多様な利用者に寄り添うユニバーサルデザイン

- 多様な利用者の視点を大切に、ユニバーサルデザインを徹底します。窓口カウンター、記載台、オールジェンダートイレ等、きめ細やかな設計とします。
- ベビーチェアやおむつ交換台、授乳室、キッズスペース等、子連れの利用者が安心できる設えとします。
- 明度差をつけた大きく認識しやすい表示と点字や音声案内を合わせた安全でわかりやすい案内サインとします。



ひとに寄り添い、未来へとつなぐ機能的かつコンパクトな新庁舎

市民サービスの向上と地域コミュニティの形成をはかり、市民が集い、交流し、協働する「重ね使い」の多目的空間である「まちの縁側」を計画し、効率性を高めた行政運営を実現する新庁舎とします。



04 機能的・経済的なコンパクトな庁舎 市民が利用しやすい「分棟」「2階建て」の新庁舎

1 分棟・2階建てによる機能の充実とコスト縮減

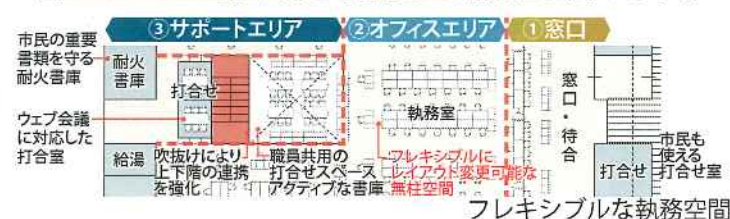
- ・執務スペースを集約し、機能を分棟化することで、面積を抑え、機能の充実とコスト縮減を両立します。
- ・市民サービスを集約した庁舎棟と独立性の高い議会棟を2階建てとすることで、上下移動を最小限とした『ワンルーム』の執務環境を提案します。
- ・執務室の中央には1、2階の執務空間をつなぐ吹抜け（エコボイド）を設けることで、各課の様子が相互に確認でき、部門間の連携強化を行い、市民サービスの質の向上を図ります。
- ・待合と会議・多目的室などの市民スペースを兼ねて計画することで、効率的な重ね使いとします。

2 市民に寄り添い、職員が働きやすい部門配置

- ・庁舎棟1階に市民利用の多い市民福祉、税務、水道、商工観光、農業等の市民窓口を集約配置し、教育委員会は独立組織として議会棟1階に配置します。
- ・総合窓口のワンストップ対応が可能な計画とします。
- ・庁舎棟2階に建設、防災安全などの都市インフラと総務企画財政、市長室などの執行部をまとめ、有事の際に迅速に連携できる機動性の高い部門配置とします。
- ・職員専用のラウンジ・更衣・休憩室を設け、職員の働きやすさを追求した庁舎とします。

3 働き方や組織の変化に追従する可変型オフィス

- ・執務室の背後に打合せスペースや会議室、書庫等のサポートエリアを設定し、業務の効率化と執務室中央の階段により職員間の連携強化を図ります。
- ・書庫は西側のバックヤードに集約配置することで、書庫スペースの効率化と執務室の柔軟性を高めます。



4 セキュリティラインの設定

- ・職員専用エリアと来庁者エリアを明確に分けることができるゾーニングとし、休日開放も可能なセキュリティラインを設定します。

5 自治体 DXを見据えた『まちの縁側』『にぎわい広場』

- ・DXの進展により各種申請など電子化・自動化が進むとわざわざ庁舎を訪れる機会は減っていきます。地域コミュニティを育む新しい場としての『まちの縁側』『にぎわい広場』と一体的に計画することで、日常的に人が集まる公共空間を創ります。

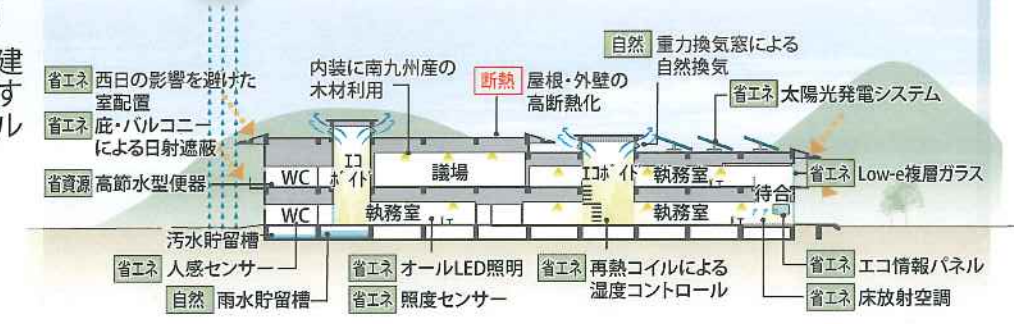
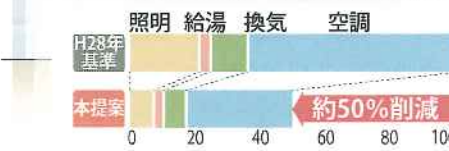


「ゼロカーボンシティ」を目指す南九州の環境配慮型庁舎

2050年「ゼロカーボンシティ」宣言に寄与する先導的な環境配慮型の施設とするためにあらゆる環境技術を取り入れるとともに、南九州市の自然エネルギーを最大限活用する環境にやさしい庁舎とします。

■ ZEBreadyを実現する建物づくり

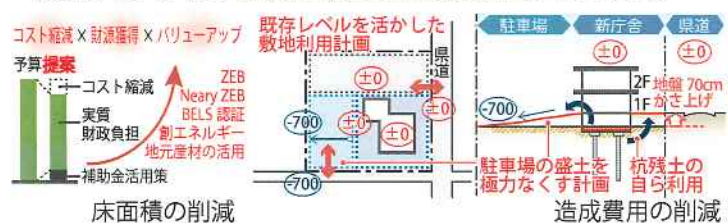
- ・ゼロカーボンシティの先駆的な建物づくりとして ZEBreadyを実現するために、建物全体で一次エネルギーの消費量を50%削減します。



05 機能的・経済的なコンパクトな庁舎 / 環境にやさしい庁舎 ライフサイクルコスト (LCC)を抑えたコンパクトな庁舎

1 イニシャルコスト (工事コスト) 削減

- ・執務室の集約や市民スペースの「重ね使い」により床面積を約7,000㎡未満に抑え、2階建てとすることで、耐震構造を可能とします。
- ・構造種別は、剛性、耐久性、工期、コスト等の時勢を考慮し、RC造+PC造を提案します。
- ・シラス台地の軟弱地盤を考慮し、設備機器は地上設置とすることで杭への負担を減らした構造とします。
- ・現状敷地レベルを活用した駐車場配置や将来用地『みらいの広場』の提案による造成面積の削減など、土の搬入が少なく造成費用を抑えた計画とします。



2 ランニングコスト (維持管理コスト) 削減

- ・建物の四周には庇・メンテナンスバルコニーを設け、外壁の汚れを防止し、窓清掃も容易な計画とします。
- ・内外装材は汚れにくく、清掃しやすい材料・納まりを採用し、清掃・維持コストを低減します。
- ・BEMS導入によりエネルギーの使用状況を見える化し、維持コストの削減に貢献します。
- ・外調機は全熱交換機付とし、CO2センサーによる在室人数等に応じた自動制御を行い省エネ化を図ります。
- ・トイレは超節水型衛生器具や自動水栓の手洗い採用により、水道使用量を削減します。



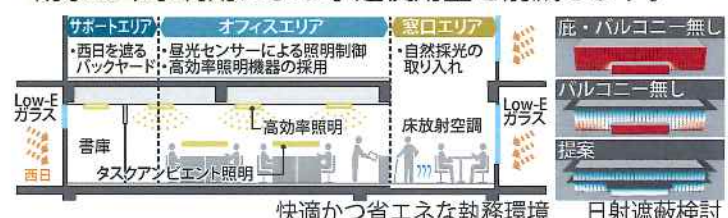
06 機能的・経済的なコンパクトな庁舎 / 環境にやさしい庁舎 ZEB Readyを実現する環境にやさしい庁舎

1 熱負荷抑制による建築的なエネルギー削減手法

- ・庁舎の西側にバックヤードを配置し、西日を避けた執務室配置とするとともに庇やバルコニーを設置することにより、日射遮蔽と熱負荷抑制を図ります。
- ・外壁・屋根の高断熱化を図り、サッシはLow-e複層ガラス+遮熱フィルムを採用し、方位に応じた遮熱・断熱型を使い分け、空調負荷を低減します。

2 自然エネルギーの有効利用

- ・執務室にはエコボイドを設け、自然採光を積極的に取り入れ照明エネルギーを削減するとともにバランス式換気窓を設け、中間期の自然換気を促進します。
- ・ゼロカーボンシティ実現に向け、屋上に太陽光パネルを設置及び増設スペースを確保し創エネを図ります。
- ・雨水の中水利用により水道使用量を削減します。



3 設備の高効率化による消費エネルギー削減

- ・高効率空調やLED照明等、環境省指定先進の高効率機器をはじめ、高効率な設備機器を採用します。
- ・再熱コイルを採用することにより湿度をコントロールし、快適な居住環境を実現します。
- ・中間期の外気冷房の活用により空調エネルギーの削減を図ります。

4 脱炭素の工夫、環境負荷低減で温室効果ガスを削減

- ・「かごしま認定リサイクル製品」等のエコマテリアルやSDGsに取り組む企業の製品等、環境負荷の少ない建材を積極的に採用します。
- ・木質化によりLCCO2を削減した庁舎を計画します。
- ・杭汚泥の自ら利用により、造成土量の削減を図り、産業廃棄物の発生を抑制し環境資源の保全を図ります。



基本方針3

基本方針4

基本方針3

基本方針4

雄大な山々や人びとの営みが織りなす原風景を取入れた新庁舎づくり

市民の心の原風景である茶畑や山々の連なり、かつてはこの地から飛び立ち開聞岳を望んだ歴史、文化などに敬意を払い、3つのまちが重なり創り上げる市民のための「未来につながるまちづくり」を提案します。



07 まちづくりに貢献し、市民の誇りとなる庁舎 原風景と調和し、市民に開かれたにぎわいあふれる空間づくり

基本方針5

- 南九州市の豊かな自然を取入れた開放的な「まちの縁側」
 - 「まちの縁側」は2層吹抜とし、「にぎわい広場」に面して周囲に開くことで、広場の緑や街路樹、周辺の茶畑、山々の風景と開聞岳を望む明るく開放的な空間とします。
 - 休日の市民開放を行い、会議利用やコワーキングスペース等多様なニーズに応えます。
 - 「にぎわい広場」は植栽や花壇の合間にレンタサイクル置場やベンチを計画し、日常的に市民や観光客が気軽に立ち寄り、憩いの場にもなるまちの公園とします。



08 まちづくりに貢献し、市民の誇りとなる庁舎 南九州市で暮らす人びとの想いや歴史、文化に寄り添うまちづくり

基本方針5

- 歴史から学んだ、原風景と調和する庁舎づくり
 - 麓集落の庭や街路は、山々を借景として取り入れ、周辺の景観がどのように見えるか、どのように活かすかを重要視しています。
 - 敷地周辺の景観を活かし、地域の文化と歴史から学び、南九州市の美しい原風景である茶畑など水平のランドスケープとそれを取り囲む大小の山々をイメージした外観デザインとします。



2 遺構を巡るツーリズムを支援する中継拠点

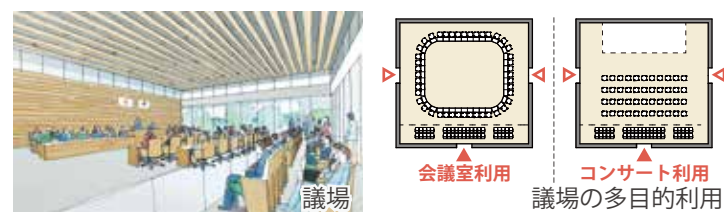
- 計画地の周辺には戦争遺構がいくつも点在しています。駐車場の一部を観光用として開放し、知覧茶とめぐるレンタサイクル「茶巡」のポートを設けることで、特産物とともに戦争遺構を巡るツーリズムの中継拠点の整備を提案します。



戦争遺構を巡る中継拠点

2 市民に開かれた多目的に活用できる議場

- 議会エリアは、1階のエントランスホールから見える位置とし、市民が気軽に傍聴できる計画とします。
- 議場はガラス張りとし、母ヶ岳を臨む開放的な空間とするとともに、傍聴ロビーに対して視覚的に開かれた議場づくりを行います。
- 議場の「重ね使い」として多目的利用を考え、市民開放や会議室等の日常使いを考慮し、段差の無いフラットな床と可動式家具の採用を提案します。



3 副滑走路跡を伝え、想いに寄り添う設計姿勢

- かつては特攻隊の副滑走路から飛び立ち上空からまちを見た時、今につながる原風景が広がっていたと考えます。戦後、滑走路から畑となり、人びとの暮らすまちへと移り変わってきた土地特有の歴史を伝承する展示スペースを玄関近くに設けます。
- 待合ホールには、南九州市全体の歴史や文化、特産物、観光名所を紹介するデジタルサイネージを設置します。



上空からの外観検討過程

歴史展示スペース

4 地域性を取込んだ新庁舎づくりと地域経済の活性化

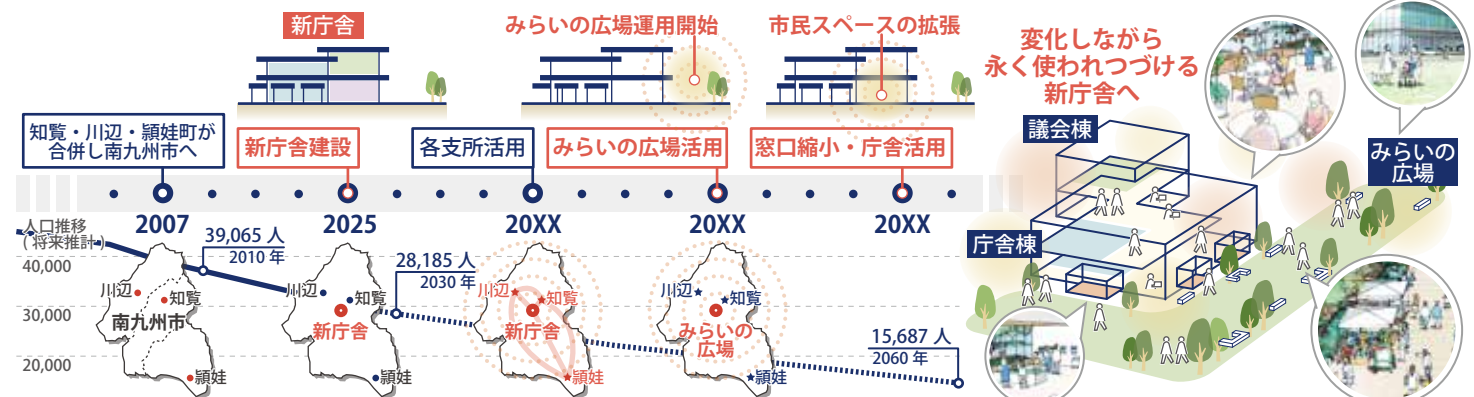
- 地場で採れる高田石を使った内外装材を提案します。珪藻土に混ぜ、地域材を使った庁舎づくりとします。
- 「かごしま森林組合」と協働し、地域産材を積極的に使用した内装や家具の木質化を図ります。
- 地元業者への発注に努め、地域経済に貢献します。



高田石を使った内外装材の試作

次世代につなぐ南九州市の未来、市民の想いを重ねたこれからの新庁舎

将来の超高齢化社会、人口減少時代を迎えることを踏まえた社会情勢に柔軟に対応する「次世代型庁舎」



09 本業務を進める上で有効な独自提案 公共施設マネジメントの視点から共に考える南九州の未来

その他の提案

1 既存庁舎を活用した南九州市のまちづくりの提案

- 新庁舎計画と合わせて、知覧・川辺・額姪支所の活用案は、公共施設マネジメントによる南九州市全体のまちづくりとして一緒に考え提案します。
- 企業誘致サイトと連携し、広域ネットワークを構築した空きスペース活用、コワーキング、物産、飲食等を広域で考え、面的活用を行う事も効果的です。
- 支所が新しい役割を備えながら、これからも地域の核としてあり続けるまちづくりをみなさまと考えます。

2 将来への可能性を広げる「みらいの広場」の提案

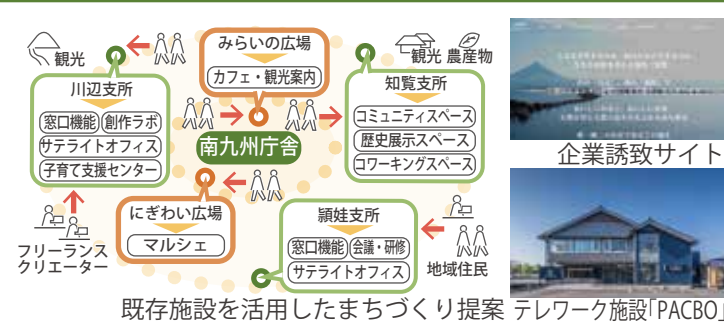
- 敷地の有効活用として庁舎機能を十分確保した上で、余剰地として「みらいの広場」を提案します。
- 既存の PACBO・TANOKAMI STATION・茶巡と連携し、おためしサテライトオフィス・チャレンジキッチン等、企業誘致のマッチングを行い、古民家・空家活用に繋がる未来のスペースとしての活用できます。
- ねぶたや竹灯籠を展示するなど文化、歴史を伝える場も併設でき、より市民に親しまれる新庁舎とします。

3 柔軟に変化する庁舎・ワークプレイスづくり

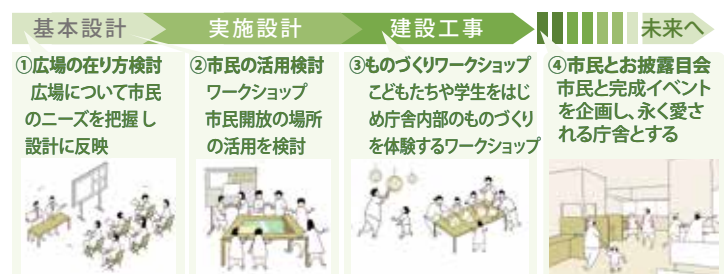
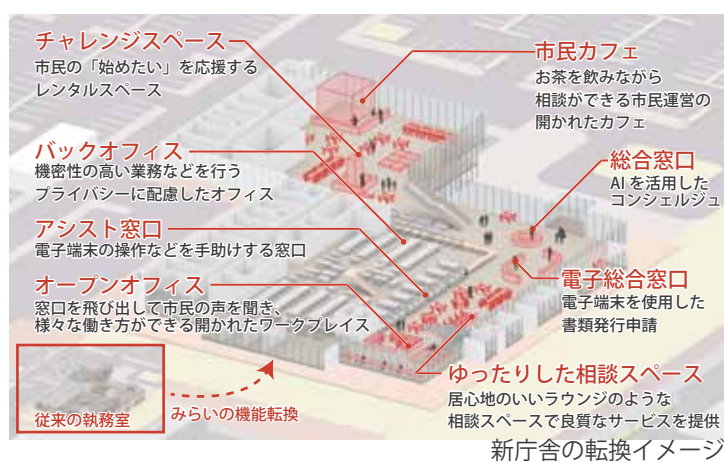
- 将来の庁舎利用のあり方として、DX等のテクノロジーの進展、ペーパーレス化により、書類・証明書発行などの窓口業務は減少し、相談業務が主になっていくことが予想されます。
- 新庁舎計画時に将来的な転換を見据え、コンパクトにまとめるとともに、執務室の縮小や市民スペースの拡張、エリア分けがしやすい平面計画とします。
- 業務内容や気分に合わせて職員が自律的に働く時間と場所を自由に選択するワークスタイル「ABW」や、窓口カウンターを排除し端末を持って職員が来庁者の元へ向かう「ワンストップサービス」等の新しいワークプレイスの導入を見据えた計画とします。

4 南九州市民が主役の参加型ワークショップ

- 未来を担う学生や子どもたちを含めた市民、職員等、プロジェクトに関わるすべての方々とともに考える、南九州市民のための新庁舎づくりを目指します。
- 「広場の使い方」や「みらいの庁舎構想」など具体的なテーマを掲げた参加型ワークショップを開催することで、南九州市の未来を考える時間を大きな財産とし、これからのまちづくりにつなげていきます。



「みらいの広場」における催しものの展示 知覧ねぶた



市民とともに創り上げるワークショップの提案